

レース名	日付	クラス	場所	コース	展開	想定馬場	ポイント
マイルグランプリ	2018/10/31	SII	大井	1600m	ハイペース	良	総合力、展開

枠	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	父	父系統	母父	母父系統	能力	騎手	適性	展開	総合評価	期待値	印	結果
1	1	サブノジュニア	牡4	57	柏木	サウスヴィグラス	ミスプロ系	カコイシース	アリダー系	C	C	D	C	C	C		
	2	クリスタルシルバー	牡3	55	岡部	サムライハート	サンデー系	アジュディケーティング	ノーザン系	C	B	B	B	B	B	△2	
2	3	ゴードー	牡10	57	赤嶺	プレシャスカフェ	ノーザン系	コノミテイオー	ザテトラーク系	D	C	B	D	C	C		
	4	トーセンハルカゼ	牡8	57	左海	キングカメハメハ	ミスプロ系	サンデーサイレンス	サンデー系	C	B	B	C	C	C		
3	5	ハルダッサレ	牡5	57	笹川	アンライバルド	サンデー系	フジキセキ	サンデー系	C	B	B	C	B	B	▲	
	6	トロヴァオ	牡5	57	本田	カネヒキリ	サンデー系	Cox's Ridge	ターントウ系	C	B	B	B	B	B	△3	
4	7	ヒガシウィルウィン	牡4	57	森	サウスヴィグラス	ミスプロ系	ブライアンスタイル	ロベルト系	A	A	B	B	A	B	◎	
	8	オメガヴェンデッタ	セ7	57	真島	ゼンノロブロイ	サンデー系	ホワイトマズル	ノーザン系	B	B	B	C	B	C		
5	9	アルマワイオリ	牡6	57	今野	マツリダゴッホ	サンデー系	ヒルサドスキー	ノーザン系	C	C	C	C	C	C		
	10	ディアデルレイ	牡7	57	吉原	キングカメハメハ	ミスプロ系	サンデーサイレンス	サンデー系	B	A	B	C	B	B	×1	
6	11	ムサシキングオー	牡9	57	和田	キングヘイロー	ノーザン系	ラストタイクーン	ノーザン系	C	C	B	B	C	C		
	12	ニシノラビート	牝7	55	的場文	サウスヴィグラス	ミスプロ系	Dynaformer	ロベルト系	C	B	B	D	C	C		
7	13	バンドオンザラン	牡4	57	赤岡	スズカコースウェイ	ノーザン系	バラダイスクリーク	ノーザン系	D	A	C	C	C	C		
	14	キャプテンキング	牡4	57	横川	ファスリエフ	ノーザン系	ブライアンスタイル	ロベルト系	C	C	B	B	C	C		
8	15	リッカルド	セ7	58	矢野	フサイチリシャール	ノーザン系	オペラハウス	ノーザン系	A	A	B	B	A	B	○	
	16	モンドアルジェンテ	牡6	57	御神本	クロフネ	ノーザン系	サンデーサイレンス	サンデー系	C	A	C	B	B	B	△1	

隊列図	見解	ラップタイム
ニシノ バンド アルマ オメガ リッカ ディア クリス ムサシ ヒガシ トーセ キャブ トロヴ サブノ モンド バルダ ゴーデ	<p>今年のJBCがJRA開催になったことで、本来JBCクラシックに出走すべきだったヒガシウィルウィン、リッカルドの南関東ナンバー1、2がこのマイルグランプリへ。そのほかにもバルダッサレ、オメガヴェンデッタ、ディアデルレイ（転厩初戦）、キャプテンキング、モンドアルジェンテと非常に豪華な名前がそろい、事実上の南関東最強馬決定戦といってもいい。レースのカギを握るのは展開だろう。メンバーを見渡す限り、前に行きたい馬がズラッとそろい、内回りコースを考へても早仕掛けからの消耗戦になりそう。そもそもヒガシウィルウィン、リッカルドはともに正攻法の競馬がウリ。差し、追い込み勢にチャンスが巡ってくるレースになるのではないかな。それでは予想にいきましょう。</p> <p>本命は<b>ヒガシウィルウィン</b>を信頼したい。古馬になってから成長がいまひとつ感じられなかったものの、帝王賞で上り2位をマークして5着に健闘すると（上りだけならゴールドドリーム、ケイティブレイブよりも速かった）、次走サンタアニタトロフィーでは斤量59キロを背負いながら完勝。（以下省略）</p>	<p>回顧</p> <p>次走狙い馬</p>

枠	馬番	馬名	印	評価	結果	回顧
1	1	サブノジュニア		2走前の東京スプリントでは勝ち馬グレイスフルリーブから0.5秒差の4着に健闘。ダートグレードでも通用する力を示したが、前走マイルグランプリトライアルは休み明けとは7着。距離が長い。		
	2	クリスタルシルバー	△2	2走前のシャバンタータービーでは正攻法の競馬で勝ち馬ルヴァンスレーヴから0.3秒差の4着に健闘。ルヴァンスレーヴがこのレースに出走していたら1番人気は間違いなく、そのルヴァンスレーヴと0.3秒差しかなかったのであれば、このメンバーでも通用するかもしれない。		
2	3	ゴードイー		追走でいっぱいになる1200mから実績のある1600mに変わるのにはプラスだが、いかんせん相手が強い。		
	4	トーセンハルカゼ		前走オーパルスプリント3着は展開とJRA勢の凡走に助けられた面が大きい。4走前にはゴードイー、3走前にはバルダッサレに負けている馬。このメンバーで上位争いは難しいだろう。		
3	5	バルダッサレ	▲	前走マイルグランプリトライアルは特殊な不良馬場での行った行ったで度外視していい一戦。2走前のサンタアニタトロフィーではヒガシウィルウィンの2着に好走。勝ち馬には完敗だったとはいえ、3着ニシノラビート以下には完勝といえる走り。良馬場でのタフな追い比べになれば、再び浮上してくるだろう。		
	6	トロヴァオ	△3	南関東で1~4枠【3.2.1.3】、5~8枠【0.0.0.6】の成績。好走時は1~4枠に集中しており、今回は3枠6番なので噛み合えば面白いかもしれない。気性的に難しい面はあるが、あたりの柔らかい本田騎手で溜めれば未脚爆発するイメージはある。		
4	7	ヒガシウィルウィン	◎	古馬になってから成長がいまひとつ感じられなかったものの、帝王賞で上り2位をマークして5着に健闘すると、次走サンタアニタトロフィーでは斤量59キロを背負いながら完勝。前走日本テレビ盃は上り勝負で切れ負けしたものの、レース内容は決して悪くなく、ここに来て再び地力強化してきた印象がある。		
	8	オメガヴェンデッタ		転入後、南関東重賞で2、2、3、3着と安定した成績を残しているが、今回は相手が強力な上、展開的に厳しくなりそう。人気がなければ押さえてもいいが、3、4番人気なら期待値の観点から軽視したい。		
5	9	アルマワイオリ		前走スーパーキングサマーカップは勝ち馬ウエイトアンドシーから0.1秒差の4着に健闘したが、高知のイツガナハブでも勝ち馬から0.5秒差の7着にいたり、メンバーレベルに疑問が残る。相手強化は間違いなく、前走から着順を落とすと考えるのが自然では。		
	10	ディアデルレイ	×1	JRA時代の実績から南関東の重賞なら勝ち負けレベル。ヒガシウィルウィン、リッカルドに割って入る可能性が最も高いのは本馬だろう。ただ折り合い難というカスミーズな競馬ができないと自分から走るのをやめる面があり、ごちゃごちゃとした馬群になり、タフな追い比べになるレースは向いていないか。		
6	11	ムサシキングオー		9歳でもまだまだ走れそうだが、2走前のサンタアニタトロフィーでは勝ち馬ヒガシウィルウィンから0.8秒差の6着と完敗。当時から上積みがあるわけでもなく、苦戦必至だろう。		
	12	ニシノラビート		4走前のサンタアニタトロフィーは前後半の800mが50.6-50.3で、マイペースの逃げに持ち込めたのが大きかった。今回はヒガシウィルウィン、リッカルドが早めに動くと見ており、逃げ残りは難しいのでは。		
7	13	バンドオンザラン		ここに来て連勝中と軌道に乗ってきたが、今回はメンバーレベルが大幅にアップ。重賞で即通用する器ではないだろう。		
	14	キャプテンキング		かつて羽田盃ではヒガシウィルウィンを下しており、実績はこのメンバーに入っても上位。能力的に圈内だが、休み明けかつ横川騎手騎乗で察するべきか。		
8	15	リッカルド	○	前走エルムステークスはスピード上げた印象。南関東に移籍してから素質開花したのは騎手が降りたこともそうだが、馬自身、地方競馬への適性が高かったのだろう。フジノウェーブ記念では正攻法の競馬でオメガヴェンデッタ、キタサンミカヅキに完勝。1600mでも能力を素直に信頼したい。		
	16	モンドアルジェンテ	△1	展開、追って味のある点で要注意。2走前のサンタアニタトロフィーでは上り最速の脚を使うも、前後半の800mが50.6-50.3のミドルペースで差し届かずの敗戦。今回は当時よりもペースが流れそうで、前傾ラップからの追い比べになれば、ヒガシウィルウィンとの着差はもっと詰まっていはずだ。		